学校番号	3010

令和8年度　　工業　　科

教科	工業	科目	プロダクトデザイン実習	単位数	4 単位	年次	2 年次
使用教科書	自主編成教材						
副教材等	デザイン実践（実教）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

2年プロダクトデザイン実習では、デザインスケッチやパッケージの制作、プレゼンテーションのための写真撮影、制作に必要なコンピューターワークについての実習を通して、発想力、構成力、表現力の向上をめざします。
実習では特にアイデアスケッチ、試作のプロセス、作品制作に関わる真摯な態度と提出期限を重視します。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
プロダクトデザイン（工業分野）のもつ社会的な意義や役割を理解し、人と技術との関わり踏まえて、関連するデザイン能力や造形表現能力に加え、現代の社会に求められる、デジタルデザインスキルを養う。
【思考力、判断力、表現力等】
プロダクトデザイン（工業分野）の人と技術との関わりを踏まえて、問題を自ら課題を発見し、解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
プロダクトデザイン（工業分野）のもつ社会的な意義や役割を理解し、人と技術との関わりを踏まえて、関連するデザインや造形に深い関心と意欲をもち、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	プロダクトデザイン（工業分野）のもつ社会的な意義や役割を理解し、人と技術の関わりを踏まえて、関連するデザイン能力や造形表現能力を身につける。	プロダクトデザイン（工業分野）の技術に関する課題を発見し，プロダクトデザインに携わる者として現代の社会に求められる、応用力を身につける。	プロダクトデザイン（工業分野）の各分野に関する技術の向上をめざして自ら学び、その発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	表現と伝達デザイン	・デザインスケッチの技法を習得する。 ・プレゼンテーションで用いる適切なデータ収集と活用について	a:画材・機材・アプリケーションの使い方を理解している。必要な基礎的な知識・技能を身に付け安全に作業を進めることができる。 b:作品制作に関する工程を通して、適切な思考・判断を行い制作することができる。 c:主体的に課題に取り組むことができる。自主的・継続的な学習を通じ、ものづくりに関する探求・創造的な能力を身に付けようとしている。	学習状況の観察 実習ノート 作品	学習状況の観察 実習ノート 作品 プレゼンテーション	学習状況の観察 実習ノート
2	パッケージの制作	ポスター制作 ・企画・調査 ・問題発見 ・作品制作 ・プレゼンテーションデザインワーク パッケージデザイン制作 ・企画・調査 ・問題発見 ・作品制作 ・プレゼンテーションデザインワーク	a：それぞれの課題に関する基礎的な技術や技能を身に付け、意図に応じた表現方法で作品制作を行っている。計画的に課題に取り組み、期日内に制作を行うことができる。 b：目的を理解し、達成するために、適切な手段を企画・調査し、計画を立てることができる。 c：ポスターやパッケージなどのデザインが持つ特性に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	学習状況の観察 実習ノート 作品	学習状況の観察 実習ノート 作品 プレゼンテーション	学習状況の観察 実習ノート
3	企画	・平面及び立体の作品等を展示するために必要な展示手法について学ぶ。	a:安全で丁寧な作業を行うことができるか。また、それぞれの素材に関して制作過程を理解し作業を行うことができるか。 b:作業工程を理解して適切な時間配分を行いアイデアや制作を行うことができるか。また、諸注意を聞いて安全に配慮しつつ作業を行うことができているか。 c:主体的かつ協働的に取り組むことができているか。	学習状況の観察 実習ノート 作品	学習状況の観察 実習ノート 作品 プレゼンテーション	学習状況の観察 実習ノート

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態